

平和・観光グループ

平和・観光グループの提案を始めます。

私たちのグループは、被爆80年を迎えた広島県が平和を実現するためにできることや、広島県を訪れた人にもっと楽しんでもらうにはどうしたらよいかを話し合いました。

このことについて、2つの提案をしたいと思います。

提案1 「平和の大切さを発信する広島県」について

一つ目の提案は、「平和の大切さを発信する広島県」についてです。

最近、ニュースでロシアによるウクライナへの軍事侵攻やアメリカによるイラン攻撃などの悲惨なニュースを見ます。戦争に関係のない市民が命を奪われるのを見ると、もう二度と戦争は起こってほしくないと強く思い、被爆地広島に住む私たちが平和の大切さを伝えていくことが重要だと感じました。

原爆投下から80年を迎え、広島県内の被爆者の平均年齢は86.1歳と高齢化が進んでいます。直接被爆体験を聞くことが困難になる中、広島市では被爆者の被爆体験を伝える被爆体験伝承者を養成していて、令和7年4月1日現在で239人いるそうです。こうした被爆の記録を後世に伝えることはとても重要だと思います。

そこで提案です。次代を担う私たちが被爆者から被爆体験を聞き、被爆者の体験や平和への思いを伝えるために学校単位で日本語と英語を交えた人形劇や自作の歌を作成し、SNSのアカウントを作って平和に向けての取組を行ってはどうでしょうか。そうすれば、広島県に来られなくても原爆の恐ろしさや平和の大切さについて学ぶことができ、平和な世界の実現に向けた気運が高まると思います。

また、被爆者や被爆体験伝承者の方から直接被爆体験を聞いて戦争の恐ろしさについて理解を深めることは重要ですが、もしかすると被爆体験を聞いただけでは戦争の恐ろしさを理解することが難しい人もいるかもしれません。

そこで提案です。原爆の恐ろしさを視覚、聴覚、嗅覚などの五感で疑似体験できるようにしてはどうでしょうか。原爆投下前の町並みや原爆投下直後の壊滅的な場実際にいるような体験ができれば、強い衝撃を受け、どれだけ戦争や原爆が悲惨なことなのか理解でき、平和についてより深く考える機会になると思います。

答弁（知事）

まず1つめの御提案である「被爆体験を聞き、学校単位で作品を作成し発信する」ことについてお答えします。

被爆者の高齢化が進む中で、被爆者の体験を後世に継承し、平和への思いを発信していくためには、皆さんのような若い世代が平和の大切さについて学び、平和の実現を目指して、仲間とともに自分たちのできることを実践していくことがとても大切であると考えています。

御提案の次代を担う皆さんが平和の大切さを発信する取組は、日本国内に留まず、世界中の若い世代に平和について考える機会を提供する、有意義な取組であると考えます。

県内では、8月6日に中学生がメッセージャーとして、各国駐日大使などの海外の方へ英語による平和メッセージを伝えたり、高校生が小・中学生とともに平和記念公園で英語と日本語で紙芝居「原爆の子さだ子の願い」を上演し、その様子を学校のホームページに公開したりするなど、様々な取組が行われています。

ぜひ、皆さんの学校でも、これらの取組を参考に、平和な世界を実現していくために、自分たちに何ができるか考え、先生とも相談しながら創意工夫した取組を進めてもらいたいと思います。

次に、原爆の恐ろしさを、五感で疑似体験することについて、御提案がありました。

御提案の取組は、戦争や原爆の恐ろしさ、悲惨さについて理解を深める大変有効な取組であると考えます。

広島県では、8月5日から5日間、大阪・関西万博の広島県ブースにおいて、VRゴーグルを使って、来場者が原爆投下前後の広島の様子を疑似体験できる取組を行ったところ、「被爆の実相を、その場にいたように体感することができた」などの声を多数いただいたところです。

また、広島市では、同様のVRゴーグルを自治体や企業、学校に無償で貸し出す取組を昨年から開始したほか、広島平和記念資料館に設置されたプロジェクション・マッピングにより、原爆の凄惨さを映像と音響で再現する取組も行っているところです。

今後とも、広島市などとも連携し、そのような最新技術を活用しながら、国内外から広島を訪問するより多くの方々に、被爆の実相を具体的かつ効果的に御理解いただ

けるよう、取組を進めていきます。

核兵器のない平和な世界を実現するため、一緒に考え、取り組んで行きましょう。

提案2 「地域の特色を伝えられる広島県」について

二つ目の提案は、「地域の特色を伝えられる広島県」についてです。

7年前、尾道市に旅行に行った時に、その土地の名物である海鮮を使用したちくわやふりかけを作る体験をしたことがありました。地元の人に教えてもらいながら初めてちくわやふりかけを作った体験はとても楽しく、旅行の大きな思い出となり、今でも強く私の記憶に残っています。私は、広島県を訪れた人にも、様々な体験を通して多くの思い出を残してほしいと思いました。

令和6年の広島県の県内・県外からの総観光客数は6,474万人で、令和5年と比べて437万人増加しています。県外からの観光客の割合が県全体の平均を上回っているのは、広島市、廿日市市、尾道市、福山市、呉市、大崎上島町の6市町で、全て沿岸部に位置しています。県内には多くの特色ある観光スポットがあるのに、観光客が偏ってしまうのは残念です。もっとたくさんの地域を知ってもらう取組が必要ではないでしょうか。

そこで提案です。各地域の特色ある体験ができるスポットを周遊するツアーを企画してはどうでしょうか。あわせて体験するごとにポイントがつくスタンプラリーやクイズを実施して、そのポイント数に応じてガチャガチャをすると広島ならではの景品がもらえるといったゲームの要素をツアーに取り入れてはどうでしょうか。そうすれば、プラスアルファの楽しみができ、広島に来てよかったと思ってもらえると思います。

二つ目の提案は、「地域ごとにおける子供ガイド」についてです。

私が県外から広島県に引っ越してきた時に、緊張しながら初めて入ったお好み焼き屋の店員さんが、フレンドリーで注文しやすかったり気軽に話しかけてくれて、広島県の人々は温かくて親しみやすい人柄だと感じました。広島県の県民性を調べてみると、「郷土愛が強い」という特徴があるようです。私たちはこうした県民性を活かして、観光客に喜んでもらえる取組ができるのではないかと考えました。

そこで提案です。地域ごとに子供ガイドを配置して、子供ならではの視点で地域の魅力を伝え、案内する仕組みを取り入れてはどうでしょうか。観光客にとっては地元の人との交流ができるし、子供ガイドだと親しみやすくいろいろな質問もしやすいの

ではないでしょうか。また、ガイドをすとなれば自分たちの住んでいる地域の歴史や文化を深く調べたり、その地域にしかない美しい景色や地元の飲食店を紹介することで地域への愛着や誇りも養えるし、プレゼン能力も身につくと思います。

答弁（商工労働局長）

まず、「周遊ツアーの企画」についてお答えします。

県内には、世界から多くの観光客が訪れる原爆ドームや厳島神社といった観光地がある一方、まだ観光客に広く知られていない地域もあることから、各地域の観光地としての魅力を磨き上げるとともに、効果的な情報発信により、県内での周遊を促進する必要があると考えています。

このため、これまで、県内各地において、地域の特色を生かした体験型の観光商品を開発するとともに、それらをテーマやストーリーでつないだ周遊ツアーの企画や、複数の観光地を訪れることで広島ならではの商品が当たるスタンプラリーなどを実施してきたところです。

今後も、県内各地の多彩な魅力をつないだ周遊ルートを観光ホームページやSNSなどで発信するとともに、ゲームの要素を含め、楽しみながら周遊いただける取組も検討していきたいと考えています。

次に、「地域ごとにおける子供ガイド」についてお答えします。

ガイドが地域ならではの魅力を伝えることは、伝え手自身の地域への愛着や誇りの形成につながるとともに、観光客にとっては地元の人とのふれあいを通じ、楽しい記憶とともに広島を感じるきっかけになる重要な取組であると考えています。

広島県内のガイド団体においては、子供が地域の歴史を学びガイド文や案内用の地図を作って、実際にガイドする活動なども行われているところです。

また、広島県観光連盟では、広島のことを知り、発信していただく方を「HITひろしま観光大使」として登録しており、その第1号は当時小学5年生の児童であったほか、複数の県内の小中学校で児童生徒が大使となり、食や歴史を記事や動画にとりまとめ、紹介するなど、地域の魅力を発信する活動を行っており、今後はこうした取組を各地域に広げていきたいと考えています。

ぜひ、皆さんも「HITひろしま観光大使」となり、地域の多彩な魅力を様々な機会を通じて、多くの方々に伝えていただきますようお願いします。